

## 結成25年の歴史に学び 安全を基礎に次代に責任 ある運動を進めよう!

中央本部は、2月8日(木)、大阪リバーサイドホテルに於いて、「JR西労組第36回中央委員会」を開催した。前日からの北陸地方大雪の中、中央委員、来賓を含め380名が出席。荻山委員長は、冒頭の挨拶で「重大インシデント」に触れ、組織全体の課題として重く受け止め、改めて、グループ・協力会社を含めた職場からの安全確立に向けた取り組みを誓った。質疑でも、全ての地本が「重大インシデント」に触れ、「聖域を設けることなく、労使の知恵と経験を結集し、対応していかなければならない」という現場からの声に、参加者全員が真摯に耳を傾けた。

総括答弁で、上村書記長が「実効性や必要性について、しっかりと検証していく」と纏めた。



### 労使が知恵と経験を結集し

米村委員 (新幹線協議会)

### 全体的質疑

●昨年12月11日、「のぞみ34号」が異音や異臭を伴い、運転を打ち切り。台車枠に亀裂が発見され、初の「重大インシデント」に認定された。

近日中に公表されるであろう運輸安全委員会や鉄道総研、台車枠の製造メーカー等の詳しい調査結果を踏まえ、労使が知恵と経験を

を結集させ、対応する事柄であると認識している。

今後も、変わることなく、高速鉄道のパイオニアとして、新幹線を走らせ続けるためにも、今回の事象を最大の教訓として取り組みを進めていきたい。

会社はこの間、「新幹線の安全性に対する信頼回復に向けて」、急ピッチで取り組みを進めている。

関係する現場では、緊急対策として、昼夜、目視での台車枠の点検、ファイバースコープによる画像の記録、車両メーカーと共に超音波探傷を行っている。

今後、新幹線協議会としては、東京地区在住者の人事運用の改善、それにふさわしいバックアップ体制の構築、博多総合車両所のリニューアル、予備編成の配置、新幹線専任車掌の要員確保、グループ会社の要員確保、地上・車上設備の充実が必要となる。聖域を設けることなく、中央本部の協力を要請する。

●今春のダイヤ改正において、JR東海が新幹線の乗組み数の見直しを発表している。慎重な議論を要望したい。

これまでも山陽新幹線は、阪神淡路大震災や福岡トンネルの崩落事故など、多くの苦難・困難・災害等で「鉄道員魂」を発揮し、乗り越えてきた。全組合員の支援協力を要請したい。

### 遺影の横に触防準則

大川委員 (米子地本)



●伯備線触車事故から12年が経過。米子地本は、本年も「安全の集い」を開催し、中央本部から、城副委員長、

福本業務部長、山中工務部会長の3名をお迎えし、事故後に入社した組合員ら92名が参加した。

また、触車事故で亡くなられた組合員のお墓参りをさせていただいた。今でも、遺影の横には触車事故防止準則が置かれている。

その「安全の集い」から2日後に芸備線で触車事故が発生。各現場に点検・指導

をする、安全に特化した専門担当の配置を提案したい。

●18春闘は、地本の4支部で総決起集会を開催し、全組合員が参加できる体制を構築する。中央本部闘争委員会をしっかりと後押ししていきたい。

●経営基盤が脆弱な山陰において、自治体との共生がなければ、地方の公共交通体系を維持していくことは困難である。昨年11月28日に、宮野政策・調査部長にも参加いただき、地域活性化検討委員会を開催した。3月末で廃線となる三江

線は、限られた要員の中、多くのお客様が利用され、3両運転や臨時列車の運行等、現場の組合員や連日支援の間接組合員の頑張りや安全輸送を行ってきた。

●第48回衆議院選挙では、野党が分裂し、惨憺たる結果となった。本部の見解をお願いする。

JR西労組組織内議員団議長に就任した、米子市議の中田利幸氏が、今年6月に6期目の挑戦をする。米子地本全組合員の力を結集し選挙戦を戦う決意である。

### 良い組合が良い会社をつくる

中村委員 (金沢地本)



●今年計画していた「安全を誓い前進を期する集い」が、7年ぶりの大雪により中止となった。

現場組合員・間接組合員、第3セクター会社の各系統

グループの組合員は、除雪支援等で疲弊している状況である。

●「のぞみ34号」で重大インシデントが発生。北陸新幹線でも、私たちの問題として取り組んでいきたい。

「新幹線問題対策会議」の内容を、金沢地本へ情報共有をお願いする。

●現在、金沢地本管内では、北陸新幹線・在来線・第3セクター会社の各系統

で、2,500人の組合員が従事。出向期間3年を経て、人事ローテーションが始まっている。

●第3セクターへの出向者は、プロパー社員教育を中心に、日々汗して働いている。昨年、出向社員に対し、3,000円加算を勝ち取ったが、シニア・シニアリーダー出向社員には加

算されていない。出向手当の支給をお願いする。

金沢地本としては、春闘撤布行動の全分会の参加。そして、2月22日に、JR連合北陸地協主催で、春闘決起集会を開催し、グループ労組も含めて今春闘を盛り上げていく。

●金沢地本組織率96%だが、昨年7月に青女組合員が西労へ加入する事象が発生。今後は、世話役活動を中心にフォロワー体制の強化に努めていきたい。引き続き「良い組合が良い会社をつくる」を念頭に、取り組んでいきたい。

### 「婚活・恋活列車」で活性化

脇村委員 (和歌山地本)



●和歌山でも、気笛吹鳴事象や労働災害が発生してお

り、その度にソフト・ハード面対策を講じているが、安全考動計画2017では、リスクアセスメントのレベルアップにも取り組む、対策を講じながら安全性を高めてきた。

●2018年春のダイヤ改正で、新宮・白浜間の特急

列車が1本減便となる。和歌山支社も、地域との意見交換を行い、ダイヤ改正実施に向けた協議を行ってきた。自治体との連携が難しく、観光客誘致に関しても、紀勢線での「婚活・恋活列車」の運行やパンダくろしお号をPRした旅行プランの実施、ワカカツといった和歌山線活性化の取り組みなど、さまざまな取り組みを実施しているが、地域活性化への道のりは厳しいも

がある。

●JR入社世代の働き方改革もさることながら、シニア世代の働き方についても議論していく必要がある。4月より、乗務員職場に短日数勤務制度最大8日が適用され、育児をしながら乗務員としてのキャリアを続けられる選択肢が広がることもあり、シニア世代と育児世代がうまく協力して働ける職場を作っていく必要があると考える。